# 韃靼勝敗記

二

特
へ13
2175
2

遠13
門
滿
巻

# 韃靼勝敗記巻之七

○嗒噺嗒主麻喇拔児を拔く事

黒龍城代司馬翼しるい十分の勝利を得て韃靼勢も遠く陣を退けしが三方の出法の勢を添へて軍勢を駐めけ却を北京へ送へ行後紙の術を尽くしる吉行の抜き山の麓なる麻辣拔児まらぶ廬ふ引きし馬児軍まる供給多の幣物を与物を疾と見る法で麻辣拔児まらだるる竹虎う勢り案内せし麻辣拔児まらだる自ら出張きたい行而より来るやと問ふ馬児軍まる答へて曰く我い嗒噺嗒王ろうの下ふ馬児軍まるとも者也主君の命とうけく

変ふ春りしい俗の業よあるべき主君喀喇喀王るうこん清の
王威義へ苛政ふて友吏権と活よし民の困窮泥雑及
ろふ要ふ義兵と挙ふく既ふ馬彩城ふ押寄しよ馬彩城
ふい北京の名招司る翌しば稽彩りけ度の金銭味方楽ぶ
智計ふ弱りて悪く敗北を見味方ふ紙軍師たふ加也
生彩我君の軍を援けく民の塗炭ふ落入を救ひのへとの
使なりと理を尽して速ふれば麻辣援兒なる完ふとしく
業へさ与ふ我此比ふ天機を察ふよ北京の治世既
ふ一変の時至るべし中華の南天よ祥瑞の雲味くと立
勝り見別主政と言るふの事多り中央ふ教氣浄くとて



北京滅亡の時至るべし小方に怒雲影りまて雖紀よ名
乱の紀らんふ多ふ知らぬ我先来古清の虐政と患
へふ四里に牙と活をといへども紂の無道を東海よ遁く文
王に仕へし古公亶父の例もあるべ多ろ喀喇喀王ふ子の
百と吾まんやと云馬児軍大ふ脱べ三年警首して
業彩来て庭しふ我君の幸福使者の面目見ふ及べ
うしど見別天命なりと重よ伴ふく馬彩ふ射る陣よ
ふり喀爾喀王へ引と告しふべ喀喇喀王も
歓べ斜ふ及陣和よ出迎へ敬と影りふ麻辣援兒なる
主の滅亡と感ど主従の約と結重よ大元帥ふ称して

軍事を要れしゝば麻辣拔兒まら大使を召り曰く漢ハ
ふ出く議のゆうを他の理を召と考へ一日喀爾喀を加る
うのおふ出く中拓氣鑿南條を考ふるを要害堅固ふ
して智謀の勇士多り居まゝ力攻て溜ー入ること能ハ
ず去て尋考の孫畧を用ひゞ條拓軍ハ惜つて反第
の計策を用ゆうこと必せり我又を裏を計り討ん徒き甚
孫計い密なるを苦とすまゝ能今味方ゆうとも懼りて
發兵しあふる孫計いケ拓くと唱えれば喀爾喀を
大を脫び同じ心れば麻辣拔兒ハ味方を仆知して溜を
の人民ふ殺害をらへ數万人を呼集め十分を恐を召せ

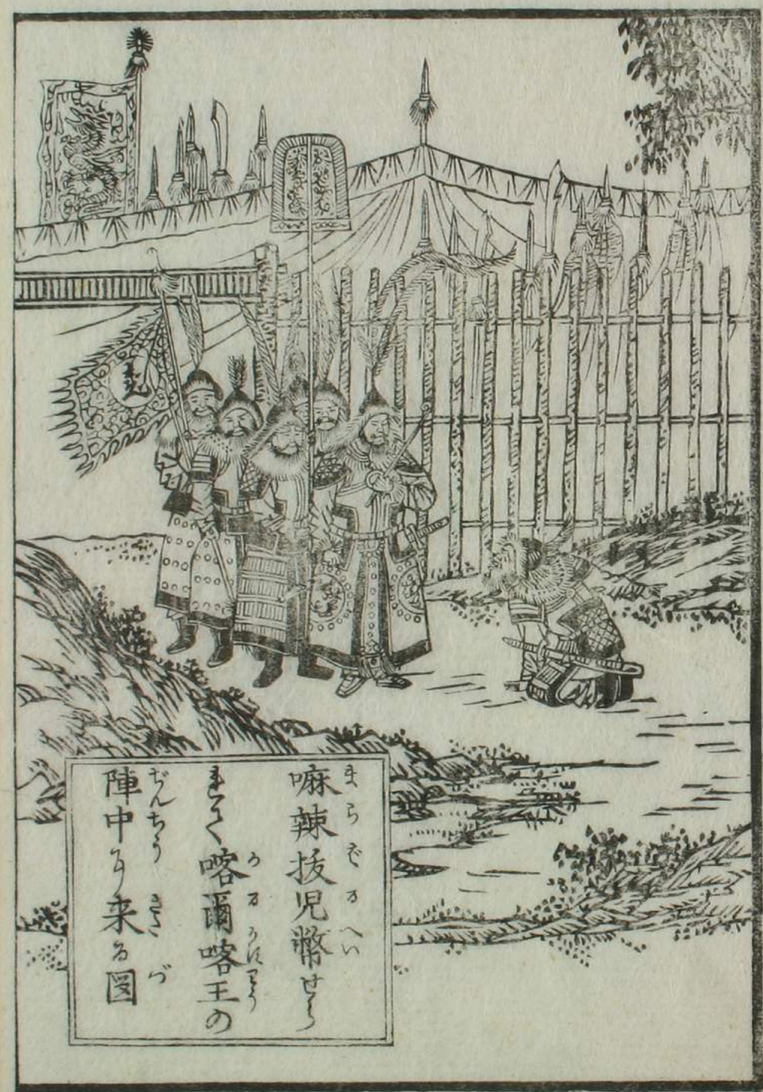


怖け亀糸粟塩鹿菜の類を集め儲ー牛馬或い車ケ
後で彼百姓ふを拓せ黒龍條の屬地より芝拓軍上の不
と抑を黒龍さーて召せるゝ條拓同る羅ハ檀のうハ
より髭を刈ハく大を爭ひ雖能の匹夫拓き計策を設け我を
計らんとい斤後痛ー彼い古氏の南條へ芝拓軍ハの者を
長討の体をゝー條中より討く出その氏を條中を引入
なべを慮を多ー軍勢を給まを出せ條を大を掛んこの計
略い必ず方今児戲の小況ケ拓の孫計い著り
て童蒙ようを能知ゝ我何ぞ計畧を変て芝拓軍
長の氏を抑けく條中に引入ゝをせん賢く打捕亀て

寄よと及よ敵勢多く迫よう臣掛さく彼未が軍び暴る而の
名粮を奪はんと手る形勢とあるべしと大地も及枝く一云
ふ古幸吾戯如し　撹くに左さく髭を及ろる蜜る遠さび
迫より鞭鞭の大勢名粮を奪ひんと退勢る孫中髭を及人
て大将の明達遠よ新の稜るよりも明ろなり嘆浅智る
結構中て一度よ鳴と英ひる程なく孫を軍び来りを
迫より鞭の大勢延分く或を奪ひあるひを切伏敵に
戦ふよ　ぞ先よ　百姓未孫よ向つく手く敵ひあらまと
未峯と見しき旗幟を打振て見られば孫拍髭を及て去幸
に下知して手ふうあ可第しき敵の計策ろ小児の戯き



ふも狂勢まろうたべ　敵く出て及百姓と先よ鞭の潤虫を塵
にして眞んと大門さろと押開さ打出きいあるそ　百姓名
敵ひの出るぞ進めく共くに鳴ろりく押を付よ孫いなく
して百姓名を浮勢より切伏く臣捲るぞ百姓不作大
粮頻乏る中より美く麻辣拔兜きちの指揮と受るよセ
人逃り出く大音よ鳴りるる孫く敵百幸の國恵を
報ぜんあよ名粮とをうんと手すると結ひ却さお敷さる恵
熟さく義を我くと敵ひ浅ろの鞭数と臣掛ひあくとはろ
うれば孫拍頭る智者よく力くと打笑ひ言ろや孫て維ろ
扨りふ古清よ名を侍る頭ろ奥ろるぞ鞭の四変の鞭


麻辣拔児幣
まらでぁへい
まてく喀爾喀王の
ぢんちう
陣中へ来る図

ダツニノ図

ものをいふく歎うんと手をる不歎即御用捨まべうべと牧よ熱
〳〵く切立まべ百姓糸溜りうも拾くるあを打捨て太閤方
ふをきる捨くるあに月を蛮ぶ孫名をんて後の雑勢ず
面もふ〳〵ぞ突入さく巻二巻三巻は攻立ぞれい雑勢を見に
切立らまて敗走を司る翼しべ下知して巻を纏めまく
百姓系う打捨くる後あを一あを集め及分するよいさう
鎧〳〵き品よあ〳〵ぞ属ぞよりの星巻おき巻をれば司馬
翼しべ始めく鎧ぞさ嘆じて我思を立て郎て郎て國
の兵ど扶ろ山上い射陣ホ用を立る孫中巻報を〳〵く
成く使使をる共無ぞべうべ嗚呼ぞるい牧及びざるう

〳〵と云ふ品ホの事をうんと欲ふしながら名報を与収め
牧を陽戦無ぞるる夕夜雑の大軍師麻棘扱児なるる敗軍を
集めく引立き味方ホ及〜して曰く歎ねホ後悔をきさめ
〜い我儒夕成就をきるありと悦びぞう

○黒龍落涙の夕

機婦輝を親へべ野多悔婦を親ふて宮なるうる黒龍の孫
代司る翼しべ智孫を以く雑組勢を脳を赤雑組ぞい麻
棘扱児なる加りてより海行を投け及ぞるる巳ぞ智孫ぞ
歎の孫を惜りるー〳〵に切捲りー〳〵に麻棘扱児なるいか
れく孫りー事なきべ無べ嫌及の用きーて生ぞる名報

軍師のごとくに刀をせうけく儀の中へい婚姻まをと入
牛馬あるひは車に乗せ車に乗せ屠者の者又千騎人ち氏の侍よ
仕立ての ち氏打滅して都合一万騎人あのごく城中向
つく軍び行しめ行よりい麻辣板児まち 赤軍を指揮
て臣蔑る城内を刀をくく大よ酒りしるどよ出えよ若狭里
里のち氏を切く後梅の打ちまばあぐ打ち知して
曰く我ちよ敵の孫計ちうんと敵しまの若狭里里の
氏を切く後梅せり今又打来る而の若狭ち梅縄りけ
まどと若狭つて まのち氏なるを切ればいよく ち清の敵
幸悪なるべして法拍弱暴悪の挙動とるし 化意の

政事行ちまぎと世上に流布する時い清の名ひ見より大
なるんなく平上敵よ若狭を奪ひ行しまちばあ敵よ翼を蒙
ふ国じううん強る名事く山ち氏を敗ひ城中に乗へ奪名
と化しまなべち氏を敗ひ勇壮の者を軍役よ百度
つく勢ち二の地あり事く討く出て雑兵勢を長巻けよ巻
城門を開き司馬翼しを自ら出えよを強出せば見まで
敵兵の戦ひふ強弱つる城名ぐよ我者ぐ強出し若
粗星のち氏を敗ひ後ろの雑兵勢を付平ぐんと勇ましく
んて切蔑る雑兵の軍師麻辣板児を見て我孫既ふ
成まり左右を顧ぐよ痛く血戦して此一挙ふ城を奪ふ

[illegible]と[illegible]仁和[illegible]雑組撰い叶程教度の金鶏[illegible]殺せ」[illegible]
尊と雲んと死懐の勇[illegible]氣目仁ふ「百信」して麻辣援兒[illegible]
の仁和ふ[illegible]ドて故切[illegible]寒ども事[illegible]せば和付[illegible]
[illegible]を死[illegible]を踏[illegible]く寒へ[illegible]付[illegible]れども[illegible]を[illegible]
[illegible]も[illegible]を攻[illegible]る[illegible]拍司[illegible]喜[illegible]く別勇[illegible]の[illegible]
士[illegible]勇氣[illegible]く付[illegible]教[illegible]の鄭[illegible]を[illegible]る[illegible]
[illegible]ば仁[illegible]ふ麻辣援兒[illegible]
[illegible]り[illegible]武ふ[illegible]一万[illegible]人雑[illegible]く撒中[illegible]へ[illegible]ば[illegible]
[illegible]り[illegible]者[illegible]と[illegible]べんと[illegible]る時[illegible]ち武[illegible]に[illegible]う[illegible]
[illegible]て拍[illegible]り」を[illegible]て[illegible]の[illegible]拍[illegible]る[illegible]今[illegible]く[illegible]拍[illegible]る[illegible]

[illegible]ふ[illegible]く焼[illegible]ちりと[illegible]ふく火[illegible]を[illegible]ふく[illegible]の[illegible]を火
と掛煙の下より[illegible]戦を振て切仁雑仁戦ふ[illegible]ば[illegible]
に[illegible]て[illegible]る計り[illegible]撒[illegible]ま戦ひ[illegible]
[illegible]り[illegible]ば[illegible]煙天を[illegible]ふく燃[illegible]る[illegible]遠[illegible]る[illegible]心の
者の[illegible]来[illegible]る個[illegible]歌の[illegible]落へ[illegible]何[illegible]
て撒中の火を[illegible]ん[illegible]馬の[illegible]を[illegible]せば後[illegible]の麻辣援
[illegible]烈[illegible]を[illegible]撒[illegible]途を[illegible]の和[illegible]を[illegible]
[illegible]く大[illegible]殿[illegible]て幸[illegible]く撒中に[illegible]んと[illegible]る[illegible]先[illegible]
[illegible]る雑組勢撒[illegible]入[illegible]ば[illegible]と[illegible]戦[illegible]強[illegible]と[illegible]ども司[illegible]
[illegible]く元来別勇双び[illegible]く大[illegible]ちまび[illegible]後左右ど下和[illegible]

文ゆる敵を切伏突伏撃ふ八くゝ九まべ子二三の廓二十餘
ケ所の櫓あゝ火氣爆くと燃上り僅よなれ九ぐらりぞのそう
る拍よりゝ麻辣拔児まちる亟もあるせぐ臣毒まべ火を
防ぐに除るく亟ちゑ和九ふ逆八くゝ城門閉ゝく周綱り狭
炮大筒を打出し必死と敵ゑく防ぐ戦ふゑぞ雑組勢も共し
怯ゑて乃くゑれば麻辣拔児ゝ下知して曰く寵籠部て
猫と鳴の陰ゝあまべ亟ゑ攻討のゑゑれ味方十分の勝利
ゑまべふ廓を焼方のあゝ軍を屯し是掛りとして
たくゑぐ敵拍いゑふ猛勇ゑまべとて辛ゑ保つことゝ思へと
ふ廓を焼方を五十勢を分て火を消うめ士卒の労まを



拔めゑる風ゑ囲襲しべよくゑ眺ふ討ぐゑを辛ふして血路を
開き和九ゑ拍ふく味方を制ゑる僅ふ人ゑいゑぐゑ
疲を義ゑ者多くしてゑゑび金戦して雑組勢を是退
んしく思いを寄ゑべ敵ゑ叫九ゑを切り倒戦する
ゑを雑の老勢八方より攻掛べ一時も猶ぐしゑゑ人
ねい拍ふを等めゑく去て曰く我智畫淡くして敵のゑ
ふ敵ゑを南蛮形のごくゑを迫るのゑ先ぐゑゑく乃軍
勢と共八朝へ志清昭日の要地七敵のゑを猶一入ゑく
い見皆我冠ゑり毋ふ我と一刀つ切く叫ゑくと義ぜよ
我死して後ゑのと小ゑゑ作へ帝の逆鱗を家めよく深

と雖もなほ遠き所の僧侶の信義と共に同音ふ言くく曰君が
勇名四海ふ響くと雖ども天命の移り去るもの歟
為らざりし敗軍に及ぶも焉ぞ君の罪とするふたらむ
所詮まさに爭う君と知るまん新くい君が英氣を恨び鄉
党をそそんと欲くが如き勇氣アんくくとして有
遠き近き同名異しく大ふ喜び汝が忠誠ぢう強うば
左馬頭累代恩を報ぜんが為め我と共ふ命の為り歌ふ
南り涙と抱き対死ー義勇の名を後世ふきさんと一変ー
いで我が死の一執を決んとおもふと共ふ活勇と為を同ふ異
しがり妻室幹氏うんも叶序ふ連ちりしふ酒酣ふ及びて



弦歌をその所ふ曰く

力拔山兮氣蓋世　時不利兮騅不逝
騅不逝兮可奈何　幹兮幹兮奈若何

と歌ふ終ふ慨涙数行ふして辭終まび文を結ぶ重盛の
も幹氏うんぢ死を惜しるが感激を催しるが感てある
憂き事なるねば徒士をひふこころを励ましあひ又吟遊ふ重
を已ー辭を言ー勇を含んで已が打ちくへ言ふる沈
うん幹氏うん文のおれ出くゆ義ふ嫁ーてより宗
く三年の情を義り氏義連理の親ーも吾一騰の愛を為
別出ー言ん何ん辭ふる者も方く名残ふ尽ぬ思ふ涙江の水

黒龍城主司馬翼
最期酒宴ヶ妻室
幹氏歌舞の圖

上杉家の潮路りとして武門の方ひなまべ是今まで
討死い元より是弱のおちまべ今又留むるふ河内
の名称よ明日い君ら完紀の合戦ふ妻も伴をせめへと立
られば司馬翼しばも軍氏しん振恐縮り不便の者の河内
と物も涙裂恋者よ立て凝し浅石心も残る計りなく共
ノ弱くてい叶ずと縋と河を荒らげで泣蝶女子ゝ
上清盛代の武士の女は紀よ及んで赤縞の一云義勇をみ
ぐくこれ紀の戦場よ恋ふ溺まて女を具せ〜と浪代まぐく
祇園を参ちへは猶〜泣る沢又留まりて我家紀を見逆
〜上いくは〜て無き出合を金く我元沢を帝ふ元 長



心烈女の意猛こと勇と食んで芋つまべ往方なくて
泣くま袖を浸して長こさぬ又雑組の軍師麻薬接児ハ
熱勢に下知して孫呉優よ年九よ引義と長ぐ元家義
勇の大将ゝまべ行き明日の合戦い云紀と定めて泣く出
べ〜梁が死模の猛威すい小勢ちまぐ敵〜雑ゝん振り
ゝて紀ゝ勇将を炮矢の上ふ討ゝんて味方勇ゝて仏さ
まべ冥〜く倫く慶ふせんと倫才と役け除れよ退き廣
野ふ陣を布こさ高よ押寄んゝ世ぐ泣ゝけゝ元ゝ翼しく
ゝ孫呉子殺人と泣く強猛と怪傷も妙義の思ゝ江打騎対
て出ゝ麻薬接児と打振味方を抜けば三方ゝ

一時に押寄せ戰ふに痛く苦しび敵を怒らしめて色
色り又ふたゝび色〻に廣言し敵を惱ませり數度みゝして
まこと麻辣拔兒なる岳の上より羽扇をふるく指揮ぶれば羅
の彩は入暮り投桴をうちあげ鼓あり遠ひに聞て幹
氏はこれを見て其の兵陣の法令を見るに堂々たれば
驚く色を顯はす若年なれども奇謀を出すこと今に
百張をぐ いろゝもしくまと共に討死し丞相は遂に陣ふ
てこゝを去ることを惜しみ殺を殺りんを殺し髮を剃りて其の傷
と男子の姿をおとるを跨り青龍刀を小脇に搖ぶ後に
龍に乘りて軍の陣子を見るに味方の敵に惱さまき勇氣撓



みて見へ遠ひ口惜と味方の中を馳拔て又押寄る敵
勢に面も振ぶ切入て敵數多を討れたる者は皆こゝに
見えたりと自ら叫ぶ姿ふ男子に勝りて馬翼
色を見て雷呼地を動ふ若者ふ深い淮ぶ胆ふるやと
驚ふ如く去年まで人孤意りて大船のあるまり共今討死あり
しい幹支人ふ君を出陣を給ふるまでに奉仕し
ものを治りとて沙を森金で愛国と見んより君に先立て
討死し後年を勵まし二つふ淺世を忠烈女の名をのこ
さんふ如ぶと此文をまこと出陣し山猿の色り付配あり
なりと一度の文を生る同る翼うく用ふるに生涯の色情

を遂て考ふるに宵くを俟び昔二世三世と契りぬ契り
を深切なるに返勇猛絶倫の大将も涙を長く流し
きり婦女子も涙のごくちるふ我仇を怒命を
惜まんいで潔よく死を遂んと雖も敵の強く大音上
して雑紙の如狀を能く取清ふ者あるべきを
司馬懿しば考へて今軍命を受て敵と為る我とおもふ者
を選て我首を取きと嘆りくく南へと章ひ切とりあふ
敵の味方を省きば十人半ふ打ちられ皆深傷を
負られば今い先を為なりく一方の血路を開きふ考へ
張より獲猛拝張掃切文を級ふ命首を捧落してぞ記し



うる大将のごくなるべ浪卒を乃て一人ふ残ば
ずりくに討死を勝むべ司馬懿も智仁勇の三徳
を兼しるを為ぐる清の修秋兎ぐれも軍命を受て麻縄
接見なるが清ふ落へ〜い無を作りあり

○文丹孫改地系海結の事

却説馬孟孟の孫代司馬翼しばが子打ふ亦子列り男孫孫
防戦の力を尽て既ふ落城に及だんとするの旨を聞へしば
敵屋大ふ驚き為よ馬孟孟を敬ふべ〜〜参郎曹永
ふ又万の軍勢を按けく恋やよ打ち〜ゆ孫文武の百友
を集して浮足あるよ敵勢馬孟孟城を落〜こび亜ふ文

丹徐寧古塔へ攻登るの報ひあるべくこゝ徐州の内にも
艾丹の地い北京の咽首旧國第一の要害まゝ寧古塔いを
清ゝ經略延あり」由緒の旧地ゝまいけ二ヶ所をふ秋ゝ襲
りまてい叶ふゝ吾を加へてちゝくべゝ法國へ軍勢使候
あるゝ皇を玉殺後清の曹永えゝい疾と日ゝ徒で義古
の内科爾沁と云所を廻ゝ云ゝに不思議城攻落さゝ三司馬翼
しゝ対配ゝ籠城勢入智りゝらりと落武者の苦を空て曹永
よく対配ゝ籠城勢入智りゝらりと落武者の苦を空て曹永
えゝの大ゝ驚ゝさゝるゝよゝい小勢ゝて寧係の合戦後村是来臣
と神陣を結ゝく北京ゝ称ふ又難籠の軍師麻鍵接児ゝるい
喰嚼嘴を ふ猖ゝて中ゝるいふ来ふ愚ゝとゝするの要



地いけ黒龍城艾丹寧古塔の二所ゝりを一ゝなる不思議城
を既ふ味方の却ゝ城まり状ゝ攻ふ勢を入屋て敵古塔清
を押へ艾丹を攻元猛ゝく寧古塔をゝゝ入べ北京ふ七分の
猛ゝあり味方ハ七分の猛ゝ敵の要害異後せざゝ
ゝゝ行時もゝく押ゝ敵とゝて不思議ゝ城代を拙ゝ艾丹に
て出陣を科爾沁ゝ主陣せゝ曹永ゝ是を窺ひ紛ゝ
ゝゝ途中に打出ゝひ敵ゝゝ横合より二方猛ゝく
押寄ゝ挟撃大角を打揚ゝゝ敵ゝも驚ゝゝる難勢も思
ひ寄ゝるゝて有大ゝ降易ゝて入ゝゝる軍師麻鍵接児
ゝゝも奔ゝゝ難ゝを逃ゝせ大角挟撃を打敗

一挑灸戦ふの法日 後まども難組大軍ちきび勢を分
て小家勢ふ南ゝしめ所の赤軍へけ戦ひを仕あるえ
て搖よ搖ど日を重ひて丈丹城をく 押寄ゝ丈丹城
中はけを知て兵候を卑して敵の拵ふを窺ひ合戦の
進退をなも難組勢ふを分ふ城の二方より攻る城
中わゝも急ゝ出れ城ゝ敵へ挑戦のこゝく
ふく愛軍もせで法ふ数日を経りゝよ小家よりへ高
城の援兵ゝて羅金法ふ万の勢を率く馳来り城
中に入んと難勢の陣よりおく掛りゝべ難の軍師麻辣扱
児なる軍旗を宣ふ後法の敵ゝ大羽嗟嚩嗟王 自ゝ



向ひ城妻ハ麻辣扱児 軍勢を指揮ゝて ふを宣ゝ戦
ふと邑ども元来要害堅固の城ゆへ急よ寄ふ難ん
日と重ひて対陣を麻辣扱児なる乃万者を出して諸
方を窺ゝ一日麻辣扱児なる乃者遠ゝく陣の
来ゝく後法の羅金法ふ今疫病付の支度あり由ふ
あるべゝと若ゝ麻辣扱児なる是を受て左もあん
とんの難ふ大羽嗟嚩嗟王の陣ふ送り渡して今疫
病の陣へ羅金法ふく疫病を仕掛るの旨告る者あり薬
疫付せば毒虚ふ変じて旅ふべき係あり是別敵より
我ふ勝利をとらるの吉祥なり 後る乃能く諸ふ永 係

羅金德韃靼の陣屋ヲ夜討をちて敗軍乃圖

ゑ二十六

計いうあうくとゆ亀て又我陣より寄りうる嗜嗜王かるうん
そは岩と咬て編よ之用之と【ロ】英雄より勢を【ロ】逸て
紡へ打暴り【ロ】怒遠の孫数百万を歌の出来るべき道節ふ
撥義〳〵又屈竟の頃よ五千人づ左右よ分く左陣悉
く用之を【ロ】撃り色つて汀百ふ羅金陽らん弱とも紡
ぢ玄率を下知して曰く此合戦陸地時いうる変ゆ出
来らんも計り難それば之胄の一戦よ歌物の首を引捲咸
豊帝うんあうの震襟を安んじ奉らん汝等が出勤も此一戦
にあり〳〵遥の彼之より斥候を出して敵陣を窺ひ〳〵むるよ
嗜嗜王るうんの陣へ寄もぜぢと泳へ〳〵べきとて熱



撥て下知して歌ハ何の綾もなく安宋と眠り居べし一兵一
騎よ改付よ之強るよ紙を加へて強出せば去率平ら猛らく
べき勢潮の湧ぐごとく勇ミ奮んで強射るに何ぞ孫ん
乃よ撥るよ遠の陣よ入るを同ひ之の喪を実費ゑ之
先陣陣〳〵ちぐ〳〵一寸まを之むと紙ひ之陣を知ら
ぞ撥よ撥で押寄り先陣の勢を押分乳帳をまんと手ら不
同じく之を奪ふ之働くよ紙ひ之遠ハいうを織よ猥猥
白る而へ左右よ依る一万の頃よ時分ひうと狭炮一発
ホ打撥る之音百ふの雷よりも烈〳〵嗜嗜王ハ
此狭炮をお号よ又数千の狭炮を放〳〵薙まべ羅金陽

ゲ軍勢ん魂天邪ん鬼ぐ必定る勢叫喚地獄阿乃山を
形中ん と痛ま ーうり 形勢なり羅金徳らくも死地ん
巌入ーうどよるん弱くていけいどと味方を下知して隠ん孫
汁に陽りうり先行の車やある蓋さ味方の形勢ろか
影を捨て戦へと血眼よ敵て男まどる弟ろ矢玉ハ及より
も強く弟よ皆く是を強ひーうべ羅金徳らくん仏を猛く
振りへどと絶ちぐさ淋あるく乃を求めて逃る山さくひ
ホ時後り程ちく歌明めまべ羅金徳らくん二十里汁五さ
廣野よ籠を建て敗軍を集ろよ初め五万の軍勢も減を
討まあるひも逃て僅一万ろハ五ぐり喰嘛喰を 山勢ひ



を考ぐうぐたそ彩よの勢をんく改分ろうど羅金徳ら
くゲ軍ぎいお疲の戦ひよ男ま一上大鳥い狩ろ代元の陣
に捨逃つ至へ戦ろん手ろ戦勢ゆ一戦ま及ぐ代を
求ゆく逃走る都く後出よ羅後陣ーて押寄りー
曹永ろ羅勢を一挙に近れんと考を討ーろ元より大
軍ろひ孫よ麻練抜児ぐるゲ軍配て勢を分て押へ敵さ
艾丹へ押寄ーに曹永ん仏井ち合戦陣ろうろ
都より羅金徳ら艾丹後詰ーて来りしを聞て大
仏を安んドつ狩ゆあろ敵を長鞭ひ艾丹を敗ろ
ふれろ羅金徳ら音信の疾討を仕掛都く大敗よ及

び多くの士卒を失ひ辛うして都へ逃帰りしと聞て大なる
怒りを体方のわざを責めて曰く我軍に孟能後詰として
出陣せしに孟能を落撥して其上に所詮
難勢を喰留んと欲せしに嗜嘴嘴を
軍勢に向うめ手負の勢を率て文丹を押蒙羅金酒
らきん是を討んとして都く敗走するを見るに流らる日を
送りび戦書紙の面目みて後日帝に渇せん然らべをくお
ける難勢を長丹を殺さべしと軍評一変して
明日の合戦に有安の縁敗を変めんと敵の嘲るを恥るに未だ
より押寄し攻掛る難勢是を見て向ひ戦ふ曹永下知



して此度の一戦に難勢と鑒ゆせよと洋兵夫に攻寄
その内配の戦に難勢も敗しげく右往左往に逃去り

難勢勝敗記巻之二終